



つうしん おにぎり通信

2022年9月17日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今日9月17日は「牧水忌」、旅と酒と自然を愛した流離いの歌人・若山牧水が亡くなった日です。生きている自分を見つめて歌い、それが故に「かなし」「さびし」という言葉が多く出てきます。牧水は、人生は旅であると言い、旅先で歌を多く詠み、日本中に歌碑が建っています。大の酒好きで、朝2合昼2合夜4合と決めて一日一升の酒を呑んでいて、肝臓を悪くして43歳の若さで亡くなりました。牧水の誕生日に由来して8月24日は「愛酒の日」となっています。

幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく

われ歌をうたへりけふも故わかぬかなしみどもにうち追はれつつ

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり

福祉行動を希望の方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麹町6-5-1 聖イグナチオ教会
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)

【老いの生き方】

今年ことしは、9月19日が敬老の日が、9月15日からの1週間が老人週間となります。「敬老の日」の始まりは、昭和22年に兵庫県のあむら村で、村主催の敬老会が開かれたことに遡ります。長い間社会に貢献してきたお年寄りを敬い、知識や人生経験を伝えてもらう場を設けることが目的でした。敬老会は、農閑期で気候的にも過ぎやすい9月とされ、当日は、村中の自動三輪車を集めて55歳以上の人を送り迎えし、公会堂でご馳走と余興でもてなしたそうです。

長生きは、目度い「長寿」ですが、長生きすることが幸せかというと、必ずしもそうではないようで、昨年99歳で亡くなった作家の瀬戸内寂聴は、90歳になる辺りから寝たきりや入院を繰り返し、ちょっと長生きしすぎたと言っています。これまでも古今東西様々な人が「老いる」ことについて書き残していますが、どちらかというと、年を重ねるつらさ、侘しさ、寂しさをぼやく人の方が多い感じです。

そんな中、老いることと上手に付き合ってきた人たちもいます。

「月と6ペンス」で有名なイギリスの作家モーム曰く、「老年には老年の愉しみがある」。老年には、欲望が消える、時間があるのでなんでもできる、若さゆえの偏り無しに美術や文学を楽しめる、そして自分の利益だけを考える利己主義からついに解放される、と言います。評論家の吉本隆明は、時間を細かく刻んで考えることを勧めます。先の事は考えずに今を生きる、そうすると気分が少しは楽になる、その時にいい気分であれば幸せと考え、悪い気分であれば不幸と考えるが、どちらも長くは続かない、人生の目的なんか知ったこっちやない、老い先短いんだから、と。文豪・森鷗外の長男である森於菟は、自分は父親のような天才ではなく凡人で良かった、老いて恥をさらしても世間に気兼ねがない、耄碌した頭には現実も夢も境がなくぼんやりしており死への恐れもない、と述べています。